

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「体すこやか 脳いきいき 笑顔きらきら いつまでも」をグループホームの理念に掲げ、地域の方々との交流を積極的に行うことで地域との関わりが持てるよう支援している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の朝礼において出席者全員で理念を音読し、共有化を図っている。また、グループホームにおける入居者の生活が理念に沿ったものとなるよう、職員がサポートしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	来訪者の方に見ていただきやすい玄関に理念を掲示するほか、併設病院の待合ホールにも新聞や理念を掲示し、グループホームへの理解を深めていただけるよう努めている。また、市のボランティア協議会に属しており、定期的に活動に参加している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	雨天の日以外は毎日散歩を行い、こちらから挨拶を続けることで、今では近隣の方々からも声をかけていただけるようになってきている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	近くに市民会館があり、大正琴コンサート等に出かけたり、新聞のちらしや老人会からの案内で外出したりしている。また、近くにある保育園との交流を続けており、散歩がてらお邪魔したり、創作活動で作った作品をプレゼントしたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当法人は地域の高齢者を対象に脳リハビリ教室を定期的 に開催しており、グループホーム職員も活動に参加して いる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義についてユニット職員全員 で話し合うとともに、職員全員で評価を行うようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域住民や市職員、入居者の家族に対し 取り組み状況についての報告を行うとともにさまざまな意見を いただき、グループホーム内でのケアの質の向上に努めて いる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	脳リハビリ教室等への参加を案内したり、事業運営やサー ビス提供にあたり相談するなどして馴染みの関係を作り、 サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護等に関する研修会を開催しており、積 極的に参加している。必要に応じて家族等に説明し、利用 にあたって支援を行える体制を整えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア改善委員会を設置し、虐待についても話し合う機会を 持つことで知識の向上に努めている。また、職員がストレスを ためることがないように職員間での協力体制ができており、より よいケアの提供に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所のケア内容や理念、医療連携体制などについて書面にて十分に説明をし、納得していただいた上で契約を結んでいる。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段のなにげない会話からも入居者の希望を聴取し、外出先や外食先の選定に活かすようにしている。入居者が要望や意見を気軽に表せる環境作りに努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に近況を報告したりお小遣い帳を確認していただいたりしている。また、衣類等の私物管理を職員が全て行ったりせず、本人と家族が一緒に行っていただくようにすることで、家族が本人の状態を把握しやすいようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族に対しアンケートを行っている。集計し、その結果を全職員に周知し、ケアの改善・向上に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミニカンファレンスや月一回のミーティング、各委員会等で職員の意見・要望や業務における問題点を聞き入れる機会を設けている。さらに日頃からコミュニケーションを図ることにより意見しやすい環境を作り、現状の把握に努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中の活動時間帯に手厚いケアを提供できるよう考慮し、ローテーションを組むようにしている。また、緊急時には管理者自らも柔軟な対応ができるよう体制を整えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット合同行事や散歩等を通じて、異なるユニットの職員や入居者同士が顔なじみとなり、情報の共有化が図られている。これにより、たとえ異動があったとしても大きな変化がなく、入居者への精神的不安も最小限に抑えられている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度における研修計画を立て、定期的に研修会を開催している。全職員が参加できるよう促し、参加できない場合でも研修資料に必ず目を通すようにしている、また、新人職員に対しては段階を追って先輩職員が指導者として付き添い、説明を行いながら業務をおこなっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所開設前から同業者との交流があり、事業所間で業務体験を行うなどして互いにケアの質の見直し・向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を確保し、職員が休憩時間にリラックスできるようにしている。また、歓送迎会等職員同士が交流できる場を適宜設け、息抜きを行うことでストレスの軽減を図っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に3回自己で勤務評定を行っており、管理者を通じて把握している。自己を評価することで自分自身を省み、さらに向上できるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者と事前に面談を行い、心身及び生活歴を把握することで本人のニーズに沿った対応ができるよう理解に努めている。	○	入居者自身が自分の意思を伝えられない場合もあり、その時は家族等それまで関わってこられた方々の意見を伺ったり、入居者の表情、しぐさなどから思いを読み取ったりして理解を深めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族との面談を行うとともに、随時電話でのやり取りを行うことで家族の思いを受け止め、サービスの提供に反映できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態及び本人・家族のニーズに当グループホームが応えられるかどうかを見極め、対応が困難である場合でも併設病院・施設をはじめ他のサービスを検討し、スムーズに利用につなげられるよう支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に見学していただき、サービス内容の説明を行ったり、相談への対応を行ったりしている。また、一緒に食事をしたり散歩したりするなどしてグループホームでの生活を体験していただくことにより、抵抗なくサービスを開始できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活全般のことを入居者と職員が共同で行うことで、信頼関係を築いている。入居者から漬物の漬け方や昔の風習などを教わることもある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活ぶりを家族が面会に来られた時に報告したり、本人の状態に変化があった時や必要なものが生じた時には電話等ですぐに連絡をとったりしてできるだけ家族にも関わっていただけるようにしている。また、家族宛てに本人の日々の様子を手紙で伝えることも行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が家族宛てに手紙や葉書で自らの近況を報告するための支援を職員が行っている。また、家族会をはじめとする行事を企画し、その都度案内し参加していただくことで、交流を深めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との手紙のやり取りや面会ができるようにしたり、行きつけの美容室で髪を切っていただいたりして、これまでと変わらない生活が行えるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が共同で作業を行うことで馴染みの関係が築け、普段の生活においても互いに助け合うことが習慣となってきた。また、自らコミュニケーションをとることが難しい入居者については、職員が間に入り関わりをもてるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後通所サービス等を利用することになった利用者に対し、その様子を見にうかがうなどのアフターフォローを行うことで、現在でも関係は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに対し、十分にアセスメントを行い、可能な限り本人の要望を取り入れ個別プログラムを作成している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や職歴等の情報を収集し、状況把握に努めている。	○	馴染みの美容室でカットしてもらったり、墓参りに付き添ったりするなど個別ケアに取り組んでいる。そのためにもこれまでの本人の状態を把握することは不可欠であると考え。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者ごとに担当職員を決め、入居者のアセスメントを行い本人の意向などを聞き出している。それを職員間で共有し、その人らしい過ごし方ができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを実施し現状や問題点などを話し合い、それを介護計画に反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3カ月ごと)な計画の見直しに加え、状態に変化があった場合も計画の見直しを行っている。特に状態に変化があった場合には、家族や関係者等に対して現状を説明し話し合った上で新しい計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況の変化等についてカルテや申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。また、介護計画に沿って支援経過を記入し、見直しに活かせるようにしている。日勤帯から夜勤帯、夜勤帯から翌日の日勤帯へと情報がつながり共有できるように申し送りを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族に対し十分にアセスメントを行い、要望に対し可能な限り柔軟に対応をするようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	募金活動に参加したり、図書館に出かけ作品展を見学したり、防災センターで防災体験をするなど、幅広く地域資源を活用している。また、防災訓練実施の際には消防署職員の方に立ち会っていただき、アドバイスを受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを定期的に受けたり、近くの花屋さんでフラワーアレンジメントの指導に来ていただいたりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して定期的に地域包括支援センターの職員と情報交換を行っており、必要があれば相談に出向き対応していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人・家族から希望を聞き主治医を決定している。また、本人の状態に応じて専門医を受診できるようにしており、緊急時には併設病院で速やかな対応ができる体制を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に認知症専門外来を受診し、本人、家族、職員が専門医から助言を受け、認知症の進行予防に努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が週3回健康状態を確認している。また、併設医療機関との連携も密に取れる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、本人の必要な情報を医療機関に提供している。また、退院後も病院のリハビリ職員等と連携し、ADLの向上に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化・急変した場合の対応方針については、契約時に本人や家族等に説明を行っている。主治医の意見をもとに状態に応じて本人や家族、事業所間で話し合い、今後のケアについて方向性を決めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ADLの低下など重度化した入居者に対しては、職員や主治医を交えて話し合い、本人にとって一番よい支援ができるよう努めている。また、本人や家族の希望にできるだけ添えるよう対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次にサービス提供を行う事業所等に対し、これまでの本人の情報を提供することにより、サービスの低下が生じたり、本人や家族に負担になつたりしないようフォローしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声掛けの際に本人の側へ行き他者に聞こえないよう配慮したり、排泄や健康チェック表等個人情報となるものを他者の目に触れないところに置く等、プライバシーを損ねることのないよう注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が自分の思いや希望を気兼ねなく表現できるような関係作りに努めている。また、本人の状態に合わせて自己決定が行えるような場所を多く作るように配慮し、職員主体とならないようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが、入居者のペースに合わせて柔軟に対応している。また、「買い物に行きたい」、「外出したい」などと入居者から希望があればその都度支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前から利用していた美容室を引き続き利用できるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、食材を切る等、入居者各々の残存能力を活かし協力して準備や後片付けなどを行っている。また、外食をする際には希望を聞き、本人が食べたいものを注文している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	定期的、もしくは希望があれば随時買い物に出かけ、好きなものを選んで購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、さりげなく誘導を行い失敗を減らせるよう努めている。状態に応じてリハビリパンツから下着への変更も行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今のところは夜間入浴を希望している入居者はいない。週3回以上入浴サービスを提供している。2グループに分かれることで安全面に配慮しゆったりと入浴できるようにしている。	○	夜間に入浴したいという希望があれば、それに対応し得る体制を整えたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活スタイルを本人や家族から聞き取り、できるだけ自宅でいたときと変わらずゆったりと休息できるようにしている。また、ベットを使用していたのか布団を使用していたのかも確認し、同じように眠れるよう居室の環境も整えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生活歴、職歴などの情報収集を十分に行い、負担とならないよう個々の能力に応じて食事の準備や畑の管理、洗濯物干し、掃除などの役割分担を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は普段事業所で管理しているが、買い物や外食に出掛けた際、自分で支払うことが可能な方には財布を所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お花見や遠足、お祭り、初詣など、季節に応じて外出の計画を立てているほか、個々の希望に応じて買い物に出掛けるなど、積極的に外出する機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に行きたいところがあれば、家族の協力を得て外出・外泊を行い支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回、絵手紙教室で描いた作品を家族宛てに送付している。また、本人から電話をしたいという申し出があればその都度対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に面会できる雰囲気作りを心掛けており、家族や知人等が面会に来られた際にはお茶をお出しし、くつろいでいただいている。時には職員が会話に参加することもあり、近況報告など行き馴染みの関係を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、全職員に周知している。今のところは身体拘束を必要とする対象者はいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の窓や玄関の鍵は日中解除している。出入口の開閉の際には音が鳴り、人の出入りが分かるよう設備を整えており、安全面にも配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	離設の恐れのある入居者もおり、全職員に意識づけを行い入居者の行動パターンを把握し所在を確認するよう努めている。また、プライバシーに配慮するため居室に入る際には必ずドアをノックすることを徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理が可能な人はハサミや爪切りを自室で管理していただいている。物品の所在を常に職員が把握し、使用の際には安全面に十分配慮するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒については、見守り・声掛けを徹底し、日々の散歩等で下肢筋力の維持・向上に努めている。誤薬については服用の際に職員が名前をきちんと確認して対応している。その他、入居者の状態把握、研修の実施等、マニュアルに基づき事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の体調に変化のある時は看護師に相談したり病院を受診したりして速やかに対応している。また、急変時に備えマニュアルを作成し、職員全員が急変時の対応方法を理解している。対応方法については定期的に研修も行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防職員立会いのもと年2回防災訓練を行い、緊急時の対応方法を身につけている。防災委員会を立ち上げ、設備管理や研修の企画・実施も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状態を職員全体で把握するために、個々にスコアシートを用いて転倒・転落防止計画を作成している。特にリスクの高い入居者に対し、家族に相談・説明・報告をこまめに行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康管理表に健康状態を記入し、排泄チェック表と併せて健康管理を行っている。また、変化があればバイタル測定を行い看護師に報告し指示を仰ぎ、必要であれば早期に病院への受診を促すようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬内容を保管し、薬の種類、副作用等を職員が常に確認できる状態にしている。薬の変更等あれば、申し送りノートを活用し職員全員に周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	併設施設の管理栄養士に相談し、繊維質の多い献立作りを行っている。また、散歩等の運動療法、こまめな水分補給による便秘予防に努め、排泄チェック表で確認をし、必要時には看護師を通して医師に相談し、緩下剤の使用について指示を仰いでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず行い、自分でできない方に対しては介助を行い清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量を健康管理表に記録し、摂取量を把握するようにしている。併設施設の管理栄養士からアドバイスを受け、栄養バランスのとれたメニュー作りをしている。こまめに水分補給を行い、特に入浴後や散歩中等は十分に水分を摂っていただくようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は必ずうがいと手洗いをしていただき、食事前の手洗いも欠かさず行っている。また、感染症予防についての研修へ積極的に参加し、知識の向上に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の中や食器棚、まな板等アルコールで拭いたり漂白剤を用いたりして衛生管理を行っている。食材は新鮮なものを選び、賞味期限を守り使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーとなっており、足の不自由な方でもスムーズに入ることができる。ベンチも設置しており、靴の着脱がしやすく、どなたでも安心して出入りできるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファーや畳があり、好みに応じてゆったりとくつろげるよう配慮している。季節にちなんだ作品を作り飾ったり、季節ごとの花を生けたりして室内でも四季を味わえるような空間を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳等、入居者が思い思いの場所で休んだり、テレビを見たりしている。気の合う入居者同士では自由に居室を行き来している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテーブルセットや仏壇など馴染みのあるものを居室に持ち込んでいただき、家庭に近い状態で過ごしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の時など定期的に換気を行っている。また、エアコンの温度調節、入り切りをこまめに行い、外気との温度差に注意している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室には手すりを設置しており、安全に移動したり入浴を行うことができるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室やトイレ、浴室など分かりやすいように表示を行い、混乱しない空間作りに努めている。環境に慣れるまでは個々の状態に応じて声掛けを行い、不安なく過ごせるよう支援している。また、個別に脳リハビリ等を行い、個々に応じて脳機能の維持・向上に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に野菜などを植えており、職員と共に水遣りをしたり収穫をしたりしている。また、ウッドデッキで外気浴をしながらおやつを食べたりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、入居者が自分の住み慣れた地域で再び生活ができるよう在宅復帰への支援に力を入れている。復帰が困難な方であっても、行動障害などが改善され心身ともに生き活きとした生活へと導けるよう努めている。その具体的な取り組みとして、1年のうちのほとんど毎日散歩を行い、外気に触れる機会を作っている。個々の体力に合わせてグループ分けして散歩コースを選択しており、体力の向上・脳機能の改善を目的として取り入れている。天候不良等で外に出られない場合でも、室内でリズム体操やリハビリ目的の体操等を行い、体力の低下を防ぐ取り組みを行っている。また、入居者は認知症専門医の診察を受け、経過を追いながら右脳の活動を活発にすることを主体とした脳リハビリテーションを日々の生活に取り入れている。